

国語科単元評価計画【第2学年】 生徒氏名()

単元名 「町の物語」を探る (全12時間) (教科書 p 205 ~ 224)			
目標 話し手は自分の考えを理解できるような表現でまとめて伝える一方、聞き手は話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容を踏まえて自分の考えを深めることができる。			
単元評価規準【B】	関心・意欲・態度 ・自分の考えを整理して述べようとしている。 ・相手の発言をメモを取りながら聞き、話の内容や意図を聞き分け、互いの共通点や相違点を探そうとしている。	話すこと・聞くこと ・話し手は、聞き手が理解しやすい表現を工夫している。 ・聞き手は、話し手の話の内容や意図を聞き分け、互いの共通点や相違点に気付き、自分の考えを深めている。	言語事項 ・自分の考えや意図を伝えるのにふさわしい語句や文の順序を考えられる。
	題材名 題材評価規準【B】規準；「おおむね満足できる」状況とB規準到達のための支援		
物語を掘り起こそう 8時間	関心・意欲・態度 ・活動を振り返り、自分の考えを明確に伝えるために必要なものについて積極的に意見を述べたり、メモしたりしようとしている。(観察) ・自分の考えを明確にして積極的に述べようとしている。(発言・ノートの発言用メモ) ・話し手の発言をメモを取りながら聞こうとしている。(観察)	・観察者の振り返りカード(話し手と聞き手の発言の記録や評価)に着目することで言葉の大切さを意識できるようにする。 ・思っていることを言葉で表し、それをノートにメモしてから発言することで、自信をもって意見を述べられるようにする。 ・5W1Hに着目できるメモ用ワークシートを用意して何を聞き取ればよいか、ねらいをはっきりさせ、意欲を引き出せるようにする。	・観察者の振り返りカード(話し手と聞き手の発言の記録や評価)に着目し、伝わらなかった原因を振り返ることにより、問題点や改善点に気付くようにする。 ・黒板の掲示を見たり、学習計画表でチェックしたりすることで、「話す・聞く」行為の改善点を意識し、場に応じた話し方ができるようにする ・5W1Hに着目できるメモ用ワークシートを用意して、何を聞き取ればよいかわかりやすくする。
	話すこと・聞くこと ・自分たちの「話す・聞く」行為の問題点・改善点に気付き、カードに記入している。(振り返りカード) ・話し手は場に応じた話し方を工夫している。(発言) ・聞き手は発言を聞き分け、質問や確認の発言をして自分の考えを深めている。(発言)	・観察者の振り返りカード(話し手と聞き手の発言の記録や評価)に着目し、伝わらなかった原因を振り返ることにより、問題点や改善点に気付くようにする。 ・黒板の掲示を見たり、学習計画表でチェックしたりすることで、「話す・聞く」行為の改善点を意識し、場に応じた話し方ができるようにする ・5W1Hに着目できるメモ用ワークシートを用意して、何を聞き取ればよいかわかりやすくする。	・語例や文例プリント、メモカードにより言葉やその順序を工夫しやすくする。
	言語事項 ・聞き手にわかりやすい言葉や表現を選び、その順序を考えることができる。	・語例や文例プリント、メモカードにより言葉やその順序を工夫しやすくする。	・語例や文例プリント、メモカードにより言葉やその順序を工夫しやすくする。
物語を伝え合おう 4時間	関心・意欲・態度 ・聞き手にわかりやすい話し方や、相手にわかりやすい文章などを工夫して発表しようとしている。(観察・発言・ノートの発言用メモ) ・友達の発表を聞き、よさをみつけて記録用紙に記入している。(発表会記録用紙の記述)	・話し手は場に応じた話し方を工夫している。(発言) ・聞き手は発言を聞き分け、質問や確認の発言をして自分の考えを深めている。(発言)	・語例や文例プリント、メモカードにより言葉やその順序を工夫しやすくする。 ・5W1Hに着目できるメモ用ワークシートを用意して、何を聞き取ればよいかねらいをはっきりさせ、意欲を引き出せるようにする。
	話すこと・聞くこと ・自分たちの発表を振り返り、よかった点や改善すべき点に気付いている。(発表会記録用紙の記述) ・友達の発表を聞き、よさに気付いている。	・話し手は場に応じた話し方を工夫している。(発言) ・聞き手は発言を聞き分け、質問や確認の発言をして自分の考えを深めている。(発言)	・黒板の掲示を見たり、学習計画表でチェックしたりすることで、「話す・聞く」行為の改善点を意識し、場に応じた話し方ができるようにする。 ・学習計画表で、具体的にチェックするポイントをつかめるようにしておく。
	言語事項 ・聞き手にわかりやすい言葉や表現を選び、その順序を考えることができる。	・語例や文例プリント、メモカードで、言葉やその順序を工夫できるようにする。	・語例や文例プリント、メモカードで、言葉やその順序を工夫できるようにする。
評価	関心・意欲・態度	話すこと聞くこと	言語事項
	-----	-----	-----
	-----	-----	-----
	-----	-----	-----

国語科学習指導案

平成14年10月18日(金) 第4校時

第2学年 A組 教室

指導者; 木檜 徳子

授業研究の視点

「話す・聞く」という行為にとって重要なものに気付くよう、『グループワーク・トレーニング』を取り入れ、観察者・話し手・聞き手の評価に基づいて、自分の「話す・聞く」行為を判定し振り返る活動を行えば、場面に応じた明確な表現をするために、言葉を選び表現を工夫したり、聞き分けたりすることが大切なことに気付くであろう。

単元名 五 「町の物語」を探る 物語を掘り起こそう(「国語2」光村図書刊)
考 察

主題設定の理由

1 生徒の実態 (男子11名、女子11名)

本学級の生徒は話をすることが大好きである。学習活動でも、元気よく挙手して発言する。国語科の授業での話し合い活動では、ディベートやパネルディスカッション、バズセッション等の形態での話し合いも経験してきている。話し合い活動について、関心・意欲のある生徒は9名である。その理由は、「意見を闘わせることが面白いから」「自分の意見がみんなに受け入れられるとうれしいから」であった。それに対して、どちらともいえない生徒が5名、関心・意欲をもてない生徒は8名である。その理由は「自分の考えに自信がない」「言いたいことがまとまらない」「考えが思い浮かばない」などである。これは、自分の考えをうまくまとめられなかったり、相手の発言を漠然と聞いてしまったことが原因と考えられる。

国語科のほか、生徒は学級活動や学年行事、生徒総会など数多く話し合いの経験をしている。しかし、話し手の発言には、まとまりがなかったりまわりくどかったりして、何を伝えたいのかわかりにくいものがみられる。また、話し手の発言がまとまっているにもかかわらず、話し合いがうまく進まなくなってしまう場面がみられる。

その原因の一つが聞き手の側にあるのではないかと考え、本年度の校内「少年の主張」校内大会の折に、聞き手が話し手の意図をどれくらい正確に聞き取ることができるか、審査用紙に記入する時間を設けてみた。「発表者が一番言いたいことは何でしょう」の欄に、学級の半数の生徒が、話し手が挙げた印象の強い事実を記入してしまっていた。これは、事実と意見を聞き分けることができず、印象の強いものに耳をうばわれ、話し手の意図をとらえることができなかったからと考えられる。また、時間内では無解答の生徒もあった。これは生徒が、日頃から話をするとき、その場面に応じてどうすれば効果的に自分の考えを伝えられるか、意識していないため、どこが重要なのか的が絞れず記入できずに終わってしまったのだと考えられる。日常、ほとんどの会話が文章ではなく、短い単語で行われるといった傾向にある言語活動にも一因があると思われる。そこで、話し手となったとき、自分の考えを聞き手にわかりやすい表現で伝えられるような生徒、また、聞き手となったとき、話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容を踏まえて自分の考えを深められるような生徒を育成したいと考えた。

そのために、「話す・聞く」という行為にとって、言葉や表現を工夫することがいかに重要であるか気付くよう、まず、実際の話し合い活動の前に「グループワーク・トレーニング」(以下GWT)を取り入れる。「聞く・話す」行為を振り返る活動に「GWT」を取り入れることによって、生徒は意欲的に活動し、場面に応じた明確な表現をするために必要なものに気付くことができるであろう。そして、もう一度「GWT」を振り返りで気づいたことを生かす活動に取り入れれば、生徒は、言葉を選び表現を工夫することの難しさや面白さ、聞き分けることの大切さを実感し、場面に応じた明確な表現をしようとするようになり、そこで培われた力を、実際の話し合い活動においても生かしていこうとするであろう。

2 教材観

本単元「『町の物語』を探る」は、どんなものにも歴史があり、それにかかわる人々の思いがあることに気づかせることをねらいとしている。その中の題材「物語を掘り起こそう」での話し合い活動を通して、自分の考えを聞き手に誤解されずにわかってもらえるような表現でまとめて伝えられるようにし、また、話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容を踏まえて自分の考えを深め、伝えられる力を育成したいと考えた。

ここでは、「自分たちの手で町の歴史や物語を掘り起こす」学習を行う。これは、生徒が第1学年の「総合的な学習の時間」で培った、自分たちの町についての思いや考えを、生かし発展させることができる学習である。生徒は町に対する自分の思いや考えをうまく伝えたいという気持ちを強くもっていると考えられるので、「町の物語」をまとめるというはっきりした目的を見失うことなく話し合うであろう。その話し合いの中で、人の考えを知り、意欲的に意見を述べたり自分の考えと比べたりすると考えられる。

自分の考えや思いをうまく伝えられ、聞き分けられるようにするために「話す・聞く」行為を振り返る活動に「GWT」を設定した。ここで言う「GWT」とは、グループの中で役割を分担し、ゲーム的手法で言葉やその表現方法を工夫することによって、決められた時間や発言回数の中で目的の内容を伝え、聞き取り、その伝わり具合を判定し振り返る活動である。そこでの自己評価や相互評価を通して「話す・聞く」行為の改善点に気づき、明確な表現を工夫するようになると考え本単元を設定した。

「話すこと・聞くこと」の学年間の系統は、下記の通りである

第一学年「暮らしを見つめる」で話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、話し手の意図を考えながら内容を聞き取ったりすることを学習してきた。

第二学年では、「一 春を伝える」で相手の考えを尊重しながら、「春」に対する思いを伝えるための話し合いをし、考えを深める学習をした。本単元「五 『町の物語』を探る」における学習を踏まえ、第三学年「一 言葉とわたしたち」のシンポジウムにおいて、相手の立場や考えを尊重して意見交換を行い、自分の見方や考え方を深めていく学習へと高めていく。

3 学習活動への支援及び留意点

- (1) 「話す・聞く」行為を振り返る活動に「GWT」を設定し、学習への関心・意欲を高めるようにする。
- (2) 活動の振り返りの過程に振り返りカードを使い、自分たちの「話す・聞く」行為を正しく評価、判定できるようにする。
- (3) 振り返りでわかったことを確かめ生かせるように2回目の「GWT」を行う。
- (4) 振り返りの際、グループで出された意見を全体に発表させ、話し合い活動の改善点としてまとめるようにする。
- (5) 司会や発表のマニュアルを用意し、活動が円滑に進むようにする。

4 校内研修とのかかわり

本校の研修主題「進んで学習に取り組もうとする生徒の育成」を図るため、生徒自らが学習活動を振り返り、改善点を見いだせるよう学習課程を工夫した。学習の振り返りには「GWT」のゲーム的手法を取り入れた。そのことにより、生徒は意欲・関心を持続させながら自分たちの「話す・聞く」行為の問題点を発見し、改善点を考え、円滑な話し合い活動を図ろうとするようになると思う。また、自分たちの力で問題を解決したという自信をもち、次の話し合い活動への関心・意欲を高めていくであろう。

学習目標

話し手は、自分の考えを、聞き手が理解できるような表現でまとめて伝える一方、聞き手は話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容を踏まえて自分の考えを深めることができるようにする。

評価規準

自分の考えを聞き手にわかるように伝えようとするとともに、話し手の発言をメモをとりながら正

確に受け止めようとしている。 (関心・意欲・態度)

話し手の発言を聞き分け、聞き分けた内容を踏まえて自分の考えを深めている。

(話すこと・聞くこと)

聞き手にわかりやすい言葉や表現を選ぶことができる

(言語事項)

学習計画 (全 12 時間予定)

過程	時間	ねらい	学習活動	教師の支援	評価項目〔方法〕
	1	1 時間目 (省略)			
つかむ	2	場面に 応じた明 確な表現 をするた めに、聞 き手、話 し手それ ぞれに何 が必要か 気付く。	<p>本時の活動のねらいを知り、GWTのルールを確認する。</p> <p>話し手・聞き手・観察者の3人グループで絵を見て言葉で伝え、振り返る活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手は送信用の絵を見て、聞き手に伝える。聞き手は話し手の言葉を受け、白紙に絵を描く。 観察者は話し手・聞き手の発言をメモし、振り返りカードに伝わり具合を判定しながら発言について気付いたことなどを記入していく。 話し手・聞き手は、できあがった絵と送信用の絵を見比べ、観察者の振り返りカードの、話し手の発言や聞き手の質問を見て、振り返りカードに記入する。 振り返りカードに書いたことをお互いに発表しながら、グループで活動を振り返り、伝わり具合を評価・判定する。 <p>グループで出された意見をクラス全体の場で発表し、自分たちの話合いの改善点を挙げ、自分の考えを明確に伝えるためには何が必要かクラス全体で振り返り話し合う。</p>	<p>関 GWTのルールを近くの友達と声に出して確認するようにする。</p> <p>関 絵を正確に伝えるための言葉探しに十分時間をとるようにする。</p> <p>話 メモは簡潔に、重要な言葉だけにしよう注意する。</p> <p>話 絵の出来不出来の原因を描画の力ではなく、自分たちの「話す・聞く」行為について探すようにする。</p> <p>話 グループでは、観察者の振り返りカードを中心にして話合いを進める。</p> <p>話 短冊黒板に意見をまとめて掲示し、次時で生かせるようにする。</p>	<p>話 自分たちの「話す・聞く」行為の問題点・改善点に気づき、カードに記入している。〔観察・振り返りカードの記述〕</p> <p>関 活動を振り返って自分の考えを明確に伝えるために必要なものについて積極的に意見を述べたりメモしたりしようとしている。〔観察・発言〕</p>
		言葉を 選び表現 を工夫す ることの 難しさや 面白さ、 聞き分け	<p>前時の改善点を生かし、話し手・聞き手・観察者の3人グループで絵を見て言葉で伝え、振り返る活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手は送信用の絵を見て、聞き手に伝える。聞き手は話し手の言葉を受け、白紙に絵を描く。 観察者は話し手・聞き手の発言を 	<p>関 前時の振り返りを本時の活動に生かせるよう、振り返りで出された改善点を発表させ、まとめて黒板に掲示し確認する。</p> <p>関 絵を正確に伝えるための言葉探しに十分時間をとるようにする。</p>	<p>話 話し手の発言を聞き分け、質問や確認の発言をしている。〔観察〕</p> <p>言 聞き手にわかりやすい言葉や表現を選ぶことができる。〔発</p>

深める	3	<p>ることの大切さを実感し場面に応じた明確な表現とは何かをつかむ。</p>	<p>メモし、振り返りカードに伝わり具合を判定しながら発言について気付いたことなどを記入していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手・聞き手は、できあがった絵と送信用の絵を見比べ、観察者の振り返りカードの、話し手の発言や聞き手の質問を見て、振り返りカードに記入する。 振り返りカードに書いたことをお互いに発表しながら、グループで活動を振り返り、伝わり具合を評価・判定する。 <p>クラス全体で、聞き手に理解してもらえるように発言できたか、また、話し手の意図を的確にとらえて発言できたか話し合い、次時の活動への意欲づけをする。</p>	<p>関聞き手は話し手の発言をメモしながら聞いてもよいことを助言する。</p> <p>話聞き手は、話し手の発言で分からないことがあったら質問や確認の発言をするよう助言する。（については黒板に掲示する。）</p> <p>話グループでは、観察者の振り返りカードを中心にして話し合いを進めるようにする。</p> <p>話本時の振り返りで出された意見を示し、前時の振り返りの改善点と比べながらその有効性を確認し、次時の話し合い活動に生かすよう助言する。</p>	<p>言・観察・振り返りカードの記述]</p> <p>関本時で分かったことを次時の実際の話し合いで生かそうとしている。〔発言・観察・振り返りカードの記述〕</p>
迫る	4	<p>実際の話合いの中で場面に応じた明確な表現を工夫する。</p>	<p>「町の物語」を掘り起こすための話題についてクラスで出し合い、グループごとに話題選びのための話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語を掘り起こすための話題をクラス全体で出し合う。 グループごとに、クラスで取り組みたい話題を五つ選ぶための話し合いをする。 記録者は話し手・聞き手の発言をメモし、振り返りカードに伝わり具合を評価しながら発言について気付いたことなどを記入していく。 改善点がグループの話合いの中でか生かされていたかどうか確認する。 グループで振り返りカードを用い、話し合いのよかった点や改善点について振り返る。 	<p>話前時までの振り返りで出された改善点を掲示し、改善点を意識して話し合いを進めるようにする。</p> <p>関事前に、自分たちの町に暮らす人や働く人、仕事についてマッピングの方法を用いて幅広く話題探しをし、イメージを広げておく。また、総合的な学習の時間で培った力を生かせることを助言する。</p> <p>関教師は十分に町の実態を調査し、話題を補足できるようにしておく。</p> <p>関挙げられた話題は短冊黒板などを使い、分類整理して示す。</p> <p>話改善点が話し合いの中で生かされていたかどうか振り返りカードで確認する。</p>	<p>関自分の考えを明確にし、積極的に述べようとしている。〔観察・メモ〕</p> <p>関話し手の発言をメモをとりながら聞こうとしている。〔観察・ノート・メモ〕</p> <p>話聞き手は、発言を聞き分け、質問や確認の発言をしている。〔観察・発表〕</p> <p>言聞き手を納得させるため、話し手は分かりやすい言葉や表現を選ぶことができる。〔観察・発表・ノート・メモ〕</p> <p>話自分たちの活動を振り返り、よかった点や改善点を、振り返りカードに記入している。〔観察・発表・振り返りカード〕</p>
5～12時間目は省略					

本時の学習（本時は全12時間中の2時間目）

(1) 本時の学習のめあて

観察者・話し手・聞き手の評価に基づいて、自分の「話す・聞く」行為を振り返り、場面に応じた明確な表現をするために必要なものに気付くことができる。

(2) 準備・資料等

振り返りカード 話し手用の絵 聞き手用の白紙 GWTルール表
マグネット チョーク ストップウォッチ 短冊黒板

(3) 展開

学習活動	学習活動への支援（留意点等）	時間	評価項目(評価の観点等)
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>GWTで自分たちの話したり聞いたりする活動を見直そう。</p> </div> <p>GWTのルールを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GWTで、自分の「話す・聞く」行為を振り返り、場面に応じた明確な表現をするために必要なことは何か活動を通して考えることを知らせる。 ・効率よく進めるため、グループ、役割、GWTの目的・詳細については前時に説明しておく。 ・GWTのルールを隣同士で声に出して確認するようにする。 ・ただのゲームに終わらないよう、めあてを意識するようにする。 	5分	<p>関本時の学習のめあてがわかり、学習計画を振り返っている。（観察）</p> <p>話ルールを隣同士で声に出して確認し合っている。（観察）</p>
<p>2 グループに分かれ、伝える活動を行う。観察者・話し手・聞き手の役割を分担し、話し手は絵を見てそれを言葉で伝え、聞き手はそれを聞き取り絵にする。観察者はその様子を記録する。</p> <p>伝わり具合を評価・判定し、振り返りカードに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察者には観察者用振り返りカード、話し手には絵、聞き手には白紙を渡すとともに席が背中合わせになるよう工夫する。 ・観察者には、話し手、聞き手の言葉をカードに記録するようながし、描かれる絵と言葉からその伝わり具合を評価・判定するよう助言する。 ・絵を正確に伝えるための言葉探しの時間を十分にとる。 ・絵の選択に配慮する。 ・聞き手側の質問は一つの説明につき1回とし、それに対して話し手は「はい」か「いいえ」のみで答えるものとする。 ・話し手の6回目の説明が終わったら、振り返りカードに記入するよう伝えておく。 	15分	<p>言観察者はカードに話し手の言葉を記入し、二つの絵を比較し判定できる。（観察・振り返りカードの記述）</p> <p>話話し手は6回の中で伝えようと、言葉を選んで話している。（観察）</p> <p>関聞き手はメモなど取りながら聞き取るようとしている。（観察・記述）</p> <p>話聞き手は、話し手の言葉を受けて、質問や確認の発言をしている。（観察）</p>
<p>3 活動を振り返り話し合う。</p> <p>グループの中で、明確に伝えるためには何が必要か、問題点・改善点を話し合う。</p> <p>グループで出された意見をまとめ、クラス全体で明確に伝えるために必要なものについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「うまく伝わってよかった」「伝わらなかった」といった感想に終わらせず、必ずその理由や改善点を挙げるようにする。 ・グループでは、観察者の振り返りカードを中心に、それぞれの振り返りカードを見ながら話し合いを進めるようにする。 ・短冊黒板にそれぞれのグループの意見を書いたものを掲示し、明確に伝えるために必要なものは何か考え、問題点・改善点をまとめるようにする。 	25分	<p>関グループの中で自分の考えを積極的に発言している。（観察）</p> <p>話明確に伝えるために必要なものに気付き、ノートにまとめている。（ノートの記述）</p>
<p>4 本時のまとめをし、次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は本時の話し合いでまとめた考えを実際に生かしてもう一度GWTを行うことを知らせる。 	5分	

